

# なごや通信

第二十九号 平成二十四年一月  
日本会議 名古屋支部 事務局  
052-763-4588

新年を迎えて、真正保守勢力結集を！

## 謹賀新年

昨年は、三・一一の東日本大震災、原発事故発生により多くの尊い生命が奪われ、また、多くの方が被災されました。心よりのご冥福と、お見舞いを申し上げます。

ここ数年の政治、経済、教育等、国情の乱れへの「天の警鐘」とも言えるものでした。東日本の方を中心に被災された方、救援の手を差しのべた自衛隊、消防、警察はじめ、多くのボランティアの方々、国民の「絆」が示した行動は、世界の賞賛を浴びました。

国民の先頭におたちにならされての天皇皇后両陛下はじめ御皇族の被災地ご訪問には、どれほど励まされたことでしょう。日本国の在り様を、如実にお示しいただきました。

名古屋支部としては、この一年、愛知県本部の名古屋市内での行事への主体的取り組み、護国神社での月一回の清掃奉仕も軌道に乗っております。愛知女性の会も、確実に動き出しております。

お陰様で、「なごや通信」も次号で「第三十号」発刊となります。

真正保守結集を目指し、グループ内の行事案内も含め、真正保守グループの活動記事も掲載し続けてまいりました。

民主党政権の混乱、自民党の壊滅的実態という状況を呈して、最優先にすべき震災復興政策も十ヶ月を過ぎようとしている今になっても明確に進まず、目指すべき国の方向も、経済財政の全体的目標も、いまだ明確に示されていません。

普天間問題もどうするのか、国際政治では許されない状況を作っているのが現状。米国もあきれ返っており、一番の被害をこうむるのは本土復帰四十年を迎える沖縄県民であろう。

尖閣問題、とんでもない人権侵害救済法問題、また、ここに来て皇室典範問題もでてまいりました。種々署名活動の展開、各新聞への投書、内閣、与党、地方議員への陳情のFAX、メールを活用しての発信、……。

各団体がバラバラに動くのではなく、横の連携をさらに強め、一丸となつての効率的運動の展開こそが、今必要と強く感じます。  
年あらたまり、真正保守勢力の結集拡大を図ることこそが重要で、セクト主義的動きは断じて許されぬ時です。一致団結して運動を展開しようではありませんか。（文責・日本会議 名古屋支部長 江 副 嘉 彦）

## 日本国家解体の危機、女性宮家創設論！

「皇室典範」第一条に皇位は男系。第十二条に女性皇族は、婚姻したのち宮家を離れることが明記されている。

この意味を考えなければならぬ。つまり、平民男子が皇族に入ること阻止するためである。平民男子が皇族になるという事は、そこには野心や名誉欲が生じ、さらには権力闘争にまで発展する可能性が極めて高い。権威は長い歴史に培われるものである。

万世一系百二十五代の天皇はまさに日本歴史の精華である。世界に類例がない。男系こそが天皇であり皇室なのである。女系になった途端に天皇は天皇でなくなり、日本は日本でなくなる。

そもそも、皇位継承が危うくなった原因を何故言わないのか。戦後の占領政策により多くの宮家を廃絶させられたからである。米国は、一気に天皇制を解体できないと知ると、長期戦略を考案した。即ち、時限装置を仕掛けたのだ。宮家を廃絶することによって、皇位継承者を減少させようと図ったのである。

皇位継承の安定は、占領政策によって廃絶させられた宮家の復活に見出すべきである。日本が再び国家の尊厳を回復することは、即ち宮家の復活に他ならない。

女性宮家創設は、日本をさらに解体する意図が込められていることを知るべきである。（文責・日本会議 愛知県本部事務局長 服 部 守 孝）

## ●愛知県護国神社清掃奉仕予定

一月八日午前八時開始、九時終了。二月は二月五日を予定。多数の参加お待ちいたしております。

現場責任者・南部（090-2773-0688）

## ●「日本の息吹」を引き続き「継続」下さいますようお願いいたします。